

育英学院同窓会報

特集 世界に連なるサレジオ同窓生

サレジオ同窓世界連合

ローマ大会報告

2015.10.3-10.6

近松秀明副会長

サレジオ学校の全世界卒業生の総会が昨年秋にローマで開催され、始めて日本の同窓会連合体である日本連合が代表団を派遣、本高専の近松副会長が参加した。以下はその報告の抜粋である。全文は高専HP配下の卒業生の頁に「[【速報】世界サレジオ同窓会会議 \(2015/10/02-07\)](#)」として掲載されているのでご高覧願いたい。

昨年 第 5 回 サレジオ同窓会 代表者会議 2015(WORLDASSEMBLY OF PAST PUPILS OF DON BOSCO)に、2015.5 に発足したサレジオ同窓会日本連合会の一員として参加した。サレジオ同窓会代表者会議は、6 年毎に開催され前回は 2010 年なので、今回は 2016 年であるところドン・ボスコ生誕 200 周年にあたり、変則的であるが今年 2015 年に開催された。参加者はおよそ 200 名で当初 26ヶ国であった。サレジオ同窓会日本連合の代表団として以下の 4 名が派遣された。

- ・鈴木正夫神父（連合顧問：前サレジオ小中学校校長）
- ・矢本浩教（連合理事：大阪星光学院同窓会常任理事）
- ・近松秀明（連合理事：育英学院同窓会副会長）
- ・立石光洋（連合事務局長：サレジオ学院同窓会常任幹事）

今回の大きな目的は、全世界を代表するサレジオ同窓会世界連合の会長及び執行委員の選出と会則の改正が主体であったが、パチカン・サンピエトロ大聖堂におけるサレジオ同窓生としての早朝ミサ及び参加各国の交流を深めるための交流の夕べなど充実した企画が計画されていた。同窓生やサレジオ家族全体にとって良い刺激となった会議であった。

日程は、2015 年 10 月 3 日から 9 日の設定で、前半の 10 月 3 日から 6 日がローマでの会議が設定されており、後半 10 月 6 日から 9 日はトリノ巡礼となっていたが、私事業務の関係もあり、ローマ会議のみ参加の行程で対応させて戴くこととし、10 月 2 日から 7 日の行程で対応させていただいた。以下概要を報告する。（日程、会長選出、各国同窓会報告等は高専 HP 参照）



日本連合代表団（立石、矢本、鈴木神父、近松）

世界連合の会長は、2 期目を満了したフランチェスコ・ムチェオ氏（イタリア）にかわり、新しくミハイル・ホルト（Hort Michal）氏（スロバキア、37 歳）が新会長の任を拝命することとなった。

役員を選出については、プレゼンに続いて投票となり、結果は得票順に決まった。なおこの際、欧州、米大陸（北中南米）とアジア・オセアニアの 3 代表を選出、アジア・オセアニアはインドのグプタ氏だけのため、同氏が無投票で選出された。規約の改正についても世界標準の 1 国 1 票ではなくカトリック教会の管区数に応じてのものとなった。後にローマ本部から報告があると思われる。いずれにしても国際会議でのやりとりは複雑なものがあり、欧州や米大陸に対して日本のプレゼンスを示すのは難しいことを実感した。

大会初日のブリーフィングでは、各国の発表に関係した演出方、文化交流のタベの進め方などを協議した。また、ミラノ博の件に関しても参加した大阪星光の矢本氏から報告があった。ミラノ博は日本では一部の報道しかないが、かなり盛大に開催されている様で、別称「食の万博」いわゆる地方博覧会であるが、ドン・ボスコ館がオープンしているということでイタリアならではの感じた。今回大阪星光学院の矢本氏が10月2日に同館のブースでコミックを主体にプレゼンを実施し好評であったとの報告があった。立石氏によると、当該の博覧会に主催者側からサレジオ高専にソーラーカーなど環境技術に関する展示を約2週間参加してほしいとの要請があったと聞いた。(残念ながらその機会はなかった) 今回の矢本氏のプレゼンは、6月頃から矢本氏の側から、サレジオ会本部広報担当のエフレム氏に企画を提案し直前での調整にもかかわらず、エフレム氏と主催者の寛大な協力により実現したとのことであった。



借しくも破れたブラジルのエドワード氏と夫人(交流会)
エドワード夫人、矢本氏、エドワード氏、近松

第1日目の会議終了後に各国のブースを設け、活動状況の一環の紹介が行われ、国によっては、特産の酒、スナック類をふるまうなどしており、そのブースは人気があった。日本連合はコミックのコラージュ(日本語版ドン・ボスコのコミック)を展示し、ドン・ボスコバッチなどを配布するとともに、全員法被を着用して存在感をアピールした。副総長のチェレダ神父から「日本が会の雰囲気を盛り上げてくれている」と称賛をいただいたと鈴木神父から報告があったほか、ムチエオ会長ほか要職の方々にお土産の法被を渡し大変喜ばれた。コミックのコラージュについては、翻訳はいつできるのかなどの質問が集中した。また、鈴木神父が準備した扇子も人気で、当日すべて配布し催事の終了間際に扇子がほしいという希望者も多かった。コスタリカなどの、南米、中米代表は踊りなど参加者の注目をひく活動で自国をアピールしており、祖国を大切にするという気持ちには敬意を払いたい。

日本に対して東チモール、エクアドルからオファーがあった。東チモールは参加国の中で最大のおよそ50名に及ぶ代表団を派遣し、親日国家でありスロイテル神父が当初の活動に大きく寄与したことからサレジオ高専のことを知っている人もいた。



交流会のタベでダンスを披露するコスタリカ代表

2016年のアジア・オセアニア大会の開催国であることから日本の代表がくることに大変期待している様で、ユニフォームであるジャケットを頂いた。来年訪問する方はぜひ当該のジャケットを催しの前後など着用いただくと良いと感じた。

また南米のエクアドルは4日目の会食会において鈴木神父とエクアドルのミルトンレーモン氏とテーブルを囲んだ際にエクアドルの工業学校とサレジオ高専の間でぜひ技術教育交流を実現したいとの話が展開した。回答にいささか躊躇したが帰国後に学校側に伝える旨を説明した。今後展開する上ではサレジオ高専の学科を具体的に説明し技術教育交流ができる学科があるかというところから始めることになると思う。今回の渡欧では学校のパンフレット(英文の学校案内も必要)などを用意していなく材料不足であり残念であった。(高専HPに2008年掲載した英文があるがその後更新していないことと、中南米はスペイン語圏につきそれだけでは十分でないことが難しい点である:編集注)



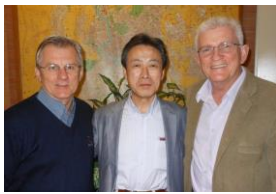
規約改正審議と投票の様子

会期中に行われた規約改正のプレゼン模様であるが欧米中心でしかもイタリア語、スペイン語が主要言語で英語の同時通訳はひどいものだった。

矢本氏は、10月6日のミサ出席後、帰国の段取りとなっていたことから、5日の会食後に再度ロビーに参集し、一連の対応の反省今後の課題、それぞれの感想などの意見交換を行った。感想としては、サレジオ会のスケールとドン・ボスコそのもののブランド力が欧州、米大陸などではかなり浸透していること。また信仰が生活の中にとりこまれていることなどが率直な感想として提示された。

卒業後社会人となった後の帰属意識の高さと、同窓会にたいする関心の高さなどが話題となった。日本の場合の多くは高校課程修了後に、一般大学に進学するケースが多く、社会人となった後のサレジオ会への帰属意識が薄くなる局面があるといわれるが高専の場合は最終学歴で社会人になり貢献されている人が多い技術の学校であることからその活動が期待できる。

これらに関連し会場のエントランスに掲示されている関連の施設などが書き込まれた世界地図を各校のロビーなどに展開するのも一案である旨を、当方より提案したところ、各位の賛同があった。(杉並の育英にはビーにあった：編者注)



ブラジル代表と・・・



東チモール代表と・・・

法被は大人気で欲しいというオファーも



フェルナンデス総長と



会場全景 (サレジオ大学)



フェルナンデスサレジオ会総長と新会長を囲んで
近松、矢本、ホルト、フェルナンデス会長、鈴木神父、立石

今回、会議と関係者との交流を通してサレジオ修道会の大きさと、ドン・ボスコの理想を追求した教育関連事業の底の深さを、身をもって体験することができたことは大きな成果であった。また、同窓会、学校含め、サレジオ修道会の活動、世界同窓会の広範な姉妹校とのつながりを在学中の学生、父母にもアナウンスするとともに、一部から検討要請のあったサレジオ高専との技術教育交流等も、前向きに対応する必要があると考えた。次回は6年後(場合によっては、3年後にミニセッション開催の可能性もある。)であるが、全体会議とは別に個別の情報連絡体制などの検討も視野にいれ、サレジオ同窓会日本連合会の活動をしっかりとしたものにしていきたいと感じた。



バチカン広場正面で記念撮影



主要な参加者集合写真（ロビー前の階段で・・・）

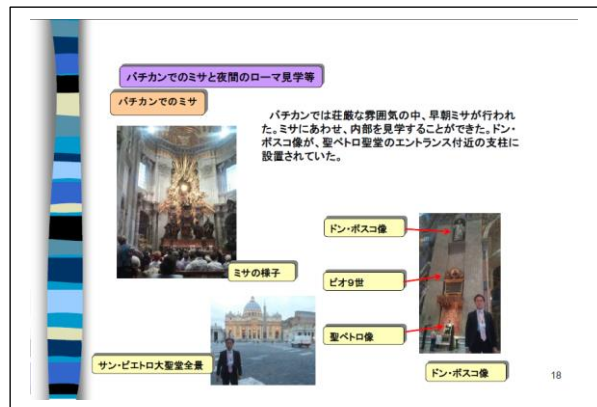
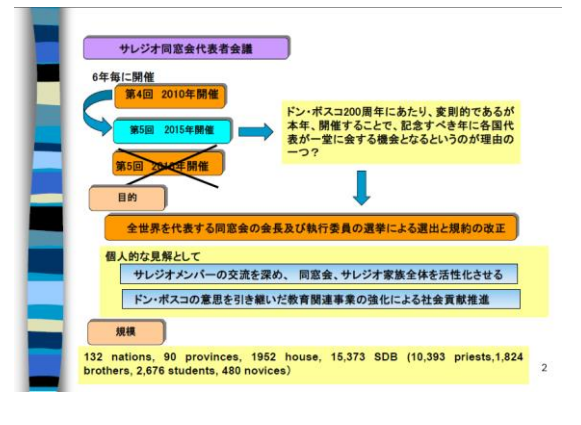
SHCD2015にて世界大会について報告

PPT 画像の一部を紹介

2015.10.31

近松副会長

昨年 2015 年 10 月 31 日同窓会総会後の SHCD2015 卒業生の集いの席上、以下のような PPT で上記の報告がなされた。後日高専 HP に掲載予定



2016.10 サレジオ同窓会アジア連合

東チモール大会準備会合報告

講師 辻村 直 (国連非常勤職員)

2015.12.4

林 紹溢 (会長)

2015 年 12 月育英サイテックにおいて今年 2016 年に開催予定の標題大会への参加準備として本校の卒業生辻村直氏 (S29ID) が現地国連職員としての豊富な経験から東チモールの現況について発表があり、同窓会執行役員が出席した。以下にその報告を掲載する

日時： 2015 年 12 月 4 日 (金) 18:30~20:45

場所： サレジオ研修施設サイテック会議室

講師： 辻村直さん (育英学院 OG)

出席：林会長、藤谷、河村、奥山、川島、由良 (以上育英)、吉田 (連合会長：星光)、大川 (事務局) 原田 (日向)、立石 (事務局)、鈴木正夫神父 (顧問) スロイテル神父、浦田神父 (杉並サイテック)、マルシリオ神父 (四谷)

■勉強会主旨

来年 2016 年 10 月、東ティモールでサレジオ同窓会連合アジア大会が開催される。サレジオ同窓会日本連合としても、各同窓会から代表者と多数の希望者に参加いただきたいと考えている。今回の勉強会は、東ティモールで国際協力機構 JICA 専門家として働いておられる辻村直さん (サレジオ高専 OG) に講師役をお願いし、東ティモールについて、また日本のサレジオグループとのこれまでの関わりや課題等について学ぶ。

■講師：辻村 直 (つじむら・なお) さん

国際協力機構 JICA 専門家。育英高専工業デザイン科卒。在学中に学校主催の東ティモール海外ボランティアに参加。2004 年よりサレジオ会系 NGO の東ティモール駐在スタッフとして赴任、東部地域の漁業普及プロジェクトを実施。ファイバーグラスでのボート作り、船外機のメンテナンス、漁業組合の設立などに尽力。2010 年より国際公務員として同国全土での漁業普及等、様々なプロジェクト等に従事、現在に至る。



辻村直さん
高専 29 期
デザイン卒

■スロイテル神父

ヘンドリクス神父、溝部司教と、東南アジアの人びとのために何ができるかを話し合い、ローマ本部の神父の勧めもあって学生を連れて東ティモールに行くことに。以来 20 年以上続けている。東ティモールがインドネシアから独立する大変な時期も、辻村さんと一緒に困難を乗り越えてきた。農業のほかに漁業もできるように支援することを考え、ヤマハ発動機の協力を得てボート製造と漁業を教えることに。ボート作り・漁業について、辻村さんも一緒に学び、現地の人に教えてきた。資金面について役人の不正など困難な状況も。生活用水の問題が深刻。水の盗難もある。寄付された 130 枚のソーラーパネルを活用して水を高地に汲み上げて配給するシステムを作るなどしている。

■辻村さん (東ティモールの概要)

東ティモールと日本は時差なし。ティモール島の西半分はインドネシア領 (旧オランダ領。西側にも飛び地で旧ポルトガル領の東ティモール領がある)。長野県ほどの大きさに 160 万人、約 30 の部族とそれぞれの言語があり、公用語はポルトガル語とテトゥン語。人口の半分以上が 25 歳以下。生産年齢人口の 60%が失業。多くはヤシの木で作った家に住む。1701 年ポルトガル領に。1859 年オランダと領土分割。1942 年から 3 年間日本が占領。1976 年インドネシアの州として併合される。1999 年国民投票により東ティモール独立。紛争、混乱。国連も関与が困難な状況。その過渡期にボランティアにかかわる。

・育英海外ボランティア

育英高専在学中、スロイテル神父に相談すれば東ティモールに行けるという「うわさ」を聞き相談。「南の島にボランティアに行ってみよう」と言うと OK に。滞在期間は約 1 か月。「育英海外ボランティア」は教員・在校生・同窓生が参加。「現地の人と一緒に状況を確認、一緒に働く」がモットー。従来は技術系ボランティアだったが、近年は他の青年グループ (望洋庵) と合同実施のため軽作業のプログラムとなっている。現状は生活用水確保が困難。水道普及率は 20%程度。子どもたちも川など水場に行って水汲みに明け暮れる日々で対策として地下水を汲み上げるシステム作り。現地の人と風車を作った。これから生活用水の確保。衛生面の改善。重労働の緩和。子どもの就学率向上が必要。体験として貧しいけれど笑顔いっぱいの子どもたち。真剣に働くティモール人。食・文化・人種を超えて味わった感動と友情がそこにあった。

ボランティア後、どうしたらこの事業を持続できるか考えた。専門性、語学力を高める。貧困打開、平和構築。国内で資金集め、チャリティーコンサート、フリーマーケット、バザー、平和を祈りつつ。NGO スタッフとして働き、JICA 専門家、国際公務員として現在に至る。

サレジオ同窓会日本連合関連報告

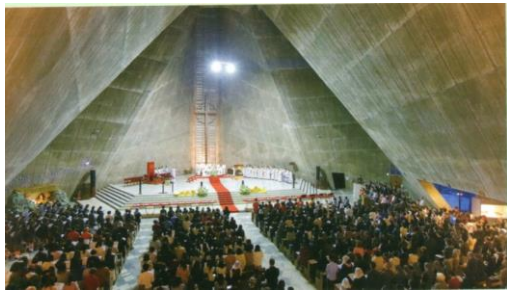
2015.11.23 DB200 閉幕ミサ

2016.1.19 横浜会合

2016.2.27-8 宮崎会合

育英学院同窓会執行役員

2015. 11. 23 DB200 閉幕ミサ



集うサレジオ家族 (DB 風 16 号より)

当日カトリック東京カテドラルに全国からサレジオ関係者(修道院、教会、学校など)が司祭 40 名余、信徒 1500 名余という参加者で盛大に挙行された。カテドラル関係者からは近年このような多数の方が参加したイベントはなかったというほどの規模でサレジオ会のパワーを見せつけた。同窓会からも会長始め執行役員有志が裏方として参加し協力した。

2015. 1. 19 横浜会合

宮崎会合にむけて準備会合として新横浜国際ホテルで開催、全国から日本連合の役員が 16 名、サレジオ会から山野内管区長をはじめ 4 名、事務局 2 名の総数 22 名が参集した。育英学院からは近松、奥山の両副会長が出席した。

現況報告

1. サレジオ同窓会日本連合の同窓生数(在校生数)
サレジオ同窓会日本連合: 45,200 人(4,160 人)

内訳は

- ・育英学院(町田): 13,400 人(770 人)
- ・日向学院(宮崎): 11,000 人(880 人)
- ・大阪星光学院(大阪): 12,300 人(1,230 人)
- ・サレジオ学院(横浜): 6,900 人(1,100 人)
- ・サレジオ小中(小平): 1,600 人(180 人)

2. 2015 年度 主な活動

- 2 月 準備会合(サレジオ学院)
- 5 月 連合設立役員会(サレジオ高専)
- 6 月 広報グループ会合(サレジオ会管区長館)
- 6 月 世の光応援団(芝浦工業大学: 東京星光会主催の若手同窓生のための勉強・交流会)
- 7 月 ウニオーネ・サレジオ同窓会連合の合同ミーティング(星美学園)

10 月 サレジオ同窓会連合世界大会日本連合代表団派遣(サレジオ会ローマ本部)

11 月 ドン・ボスコ生誕 200 周年閉幕イベント&ミサ(東京カテドラル)

12 月 東ティモール勉強会(杉並サイテック)準備・交流会。22 人参加

12 月 世の光応援団(芝浦工業大学) 16 年

1 月 サレジオ家族合同評議会(調布サレジアン・シスターズ管区本部)

1 月 プレミーティング(新横浜)

2 月 連合役員会(日向学院)



宮崎準備会合(横浜)

3. 今後の展望(宮崎での検討案)

山野内管区長より、サレジオ家族年間目標 2016(ストレンナ)を紹介。聖霊にゆだねて冒険してみよう! イエスと一緒に。」サレジオ会員は同窓生と共に「Adventure 冒険」に出る 1 年としたい。

With Jesus letus Adventure in the Spirit together!

中期計画(3~5 年スパン)

①交流・連携の推進(案)

1-1) 広報で同窓会連合を周知、パンフレットやホームページ制作等。日本・世界の広がりを知。

1-2) 全体会合の間隔を短くし、具体的な活動を積極的に進めていく。

1-3) 集いやすいイベントを繰り返し、互いの同窓会を周知する。

1-4) 数年に 1 度大きな会合を開き、広く参加を呼びかける。

1-5) 集える場(OB 経営の飲食店等)の情報収集・共有。

1-6) 国内外サレジオ活動支援「ドン・ボスコ基金」の運営支援。

②在校生交流の支援(案)

2-1) サレジオの日本・世界のネットワークを在校生に周知・育成し、若手同窓生の活性化をめざす。

2-2) 日向学院「アジア高校生サミット」を生徒・同窓生の交流の機会に。(別紙参照)

2-3) 生徒代表セミナー・交流会／スポーツ交流会／合同文化祭（音楽演劇等）を順繰りに開催。
 ③若い同窓生の支援（案）
 3-1) 同窓会青年部の検討（世界連合では18～30歳の同窓会青年部＝GEXとその代表者を配置）
 3-2) 各同窓会の枠を超え、若者支援・進路相談・勉強・交流会等を展開する。
 3-3)16年10月の東ティモール大会に20代の若い同窓生を派遣することも検討したい。
 3-4)DBVG ドン・ボスコ海外青年ボランティアへの参加を呼びかける。

④研修・研鑽（案）
 4-1) ドン・ボスコの精神を学ぶ勉強会。
 4-2)16年10月同窓会アジア大会@東ティモールに積極的に参加、準備会を開催。
 4-3) サレジオ会学校教職員の交流・研鑽支援。

2016.2.27-8 宮崎会合（連合役員会）
 2月27日宮崎において日本連合宮崎会合が開かれ、育英学院からは林会長、近松副会長、河村副会長が出席し、1.19 横浜開催の議案について熱心に討議された。その報告等については次号で紹介したい。

2015 年度 専攻科修了式・本科卒業式挙行

専攻科 14 期修了生、本科 49 期卒業生

2016.3.15 卒業式（橋本社のホール）、謝恩会（多摩センター京王プラザ多摩）

3月10日には高専において卒業生対象に同窓会に関する紹介を行い同窓会年報 2016 を配布した。続いて3月15日には肅々と式典が挙行された。ことばの祭儀に続いて次のように修了・卒業式が進められた。

開式・国歌斉唱
 専攻科修了証書授与 10 名
 学位記【学士（工学）】授与 10 名
 本科卒業証書授与 124 名
 優秀賞 4 名、優等賞 4 名、努力賞 8 名
 卒研賞 12 名、皆勤賞 15 名、精勤賞 34 名、功労賞 22 名
 校長式辞
 来賓祝辞 議員（国会、都会、市会）、父母会長
 送辞（在校生代表）、答辞（卒業生代表）
 校歌斉唱・送る歌「旅立ちのうた」
 こうして卒業生は巣立っていった。



ことばの祭儀：祈願



証書授与式

引き続き謝恩会では卒業を祝して祝辞、乾杯と続き本科生にとっては卒業できた喜びに顔をほころばせ、保護者の皆さんにとっては我が子が進学、就職と社会に出て行くことができてホットする様子がかいま見えた。謝恩会では同窓会長の挨拶、クラスと同窓会を繋ぐ各クラスの評議員が紹介された。

AD	高橋 怜亜	千葉 直樹
EE	木下 風幸	瀬下 拓也
ME	佐々木 元気	小山 輝
CS	鈴木 裕也	古川 泰地

早速、今秋10月29日（土）に評議員の皆さんの協力でSHCD2016が開催されるので再会を期した。



謝恩会での校長祝辞



同窓会長による評議員紹介

